

石油ストーブ事故6割増

11年度 節電傾向で販売急伸

石油ストーブによる2011年度の事故件数が、前年度と比べ約6割増えていたことが独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)のまとめで分かった。節電意識の高まりなどから石油ストーブの販売台数が伸びているとみられ、同機構は例年事故が増え始める11月を前に注意を呼び掛けている。

同機構によると、石油

ストーブの事故は現在の統計方法に改めた08年度の94件以降、78件、51件と減少が続いていたが、11年度は81件(うち死亡事故は7件)と増加に転じた。電気ストーブなどの暖房器具は11年度も減少していた。

石油ストーブの販売台数は約126万台、約131万台、約150万台と微増で推移していたが、11年度は約26

7万台に急増。東日本大震災後、岩手、宮城、福島の前年度の約3倍に増えたといい、担当者は「被災地の人は特に気を付けてほしい」と話している。

事故原因は、タンクのふたの閉め方が不完全なために漏れた灯油が引火するケースが最多。可燃物の接触や乾燥させていた洗濯物の落下が事故に

つながる例も多く、同機構は正しい使用方法を守るよう注意喚起している。

新潟日報より